

R-19

1. 梁増打ちコンクリート要領

e (mm)		50 < e ≤ 200
B, D (mm)	2 - D16	
300 < B, D ≤ 500	3 - D16	
500 < B, D ≤ 700	4 - D16	
700 < B, D ≤ 900	5 - D16	
900 < B, D ≤ 1,100	6 - D16	
1,100 < B, D ≤ 1,300	7 - D16	

* e ≤ 50mm の場合は補強筋不要とする。

2. はり間方向屋根根梁水勾配増打部の補強要領

はり間方向屋根の水勾配増打部の補強は下記による。

ラメン構造 梁増打ち要領

R-16-1

R-21

設備機器埋込要領

仕
 ① 柱に原則として設備機器の埋込は行わない。設置する場合は設備機器設置部分に埋込し打ちする。
 ② 設備機器の埋込は埋込打ち長さ "e" が e ≤ 50mm の場合は補強の必要はない。
 ③ 埋込打ち長さ "e" が e > 50mm の場合の埋込は R-16-2 に準ずる。
 ④ 設備機器が埋込打ち部の補強筋を切断する場合、補強筋を設備機器の周囲に付けて設置する。
 ⑤ 埋込埋込部が他の部材を切断しない場合は、補強の必要はない。この場合は設備機器と壁との間に十分に隙を確保する。
 ⑥ 壁に設ける埋込埋込部が他の部材を切断する場合、切断した部材に埋込部の外側に補強筋を配する。この補強筋と壁の配筋は必ず手渡しとし、重ね長さ e は 1 とする。

設備機器の取付方法は、設置する部分の柱を打ちする方法と内装仕上材にて充填する方法がある。内装仕上材にて充填する方法は、意匠設計による。

設備機器埋込要領

R-16-3

R-20

1) 柱増打ちコンクリート要領

e (mm)		50 < e ≤ 125
B, D (mm)	3 - D16	
300 < B, D ≤ 500	4 - D16	
500 < B, D ≤ 700	5 - D16	
700 < B, D ≤ 900	6 - D16	
900 < B, D ≤ 1,100	7 - D16	
1,100 < B, D ≤ 1,300	7 - D16	

* e ≤ 50mm の場合は補強筋不要とする。

仕
 ① 柱の増打ちコンクリートの厚さ e は原則として 125mm 以下とする。
 ② 軸方向部は増打ちコンクリート断面積の D、B 又は D 以上、間隔は 200mm 以下とする。定数は 5d とする。補強筋を表にて示す。
 ③ 増打ち部の補強は断面積の増打ちと同様とし、間隔は 200mm 以下とする。また断面積は 300mm 以上とする。

他の増打ちコンクリートの厚さ e が 125mm をこえる場合は、正面の断面積として計算にとり入れるものとする。
 5d 以上の定数とする場合は補強筋については構造設計により決定する。

ラメン構造 柱増打ち要領

R-16-2

R-22

1. 直接基礎の場合

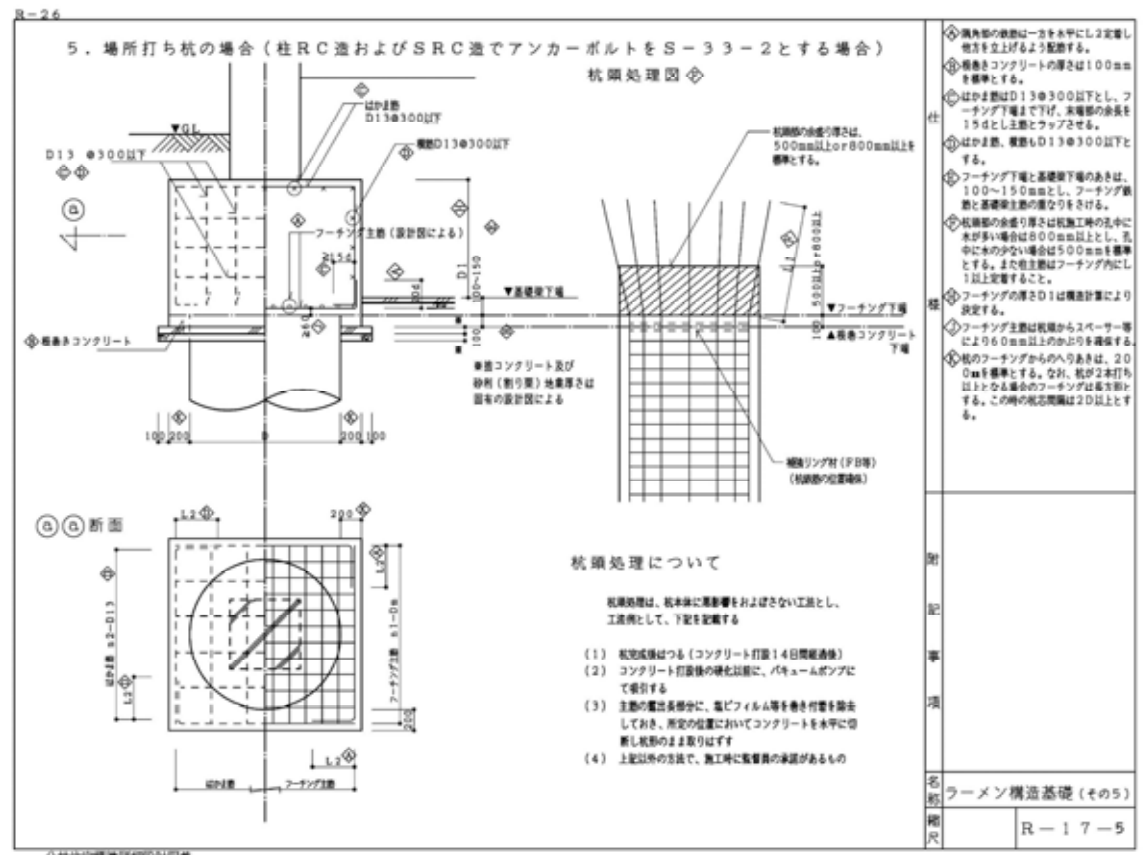
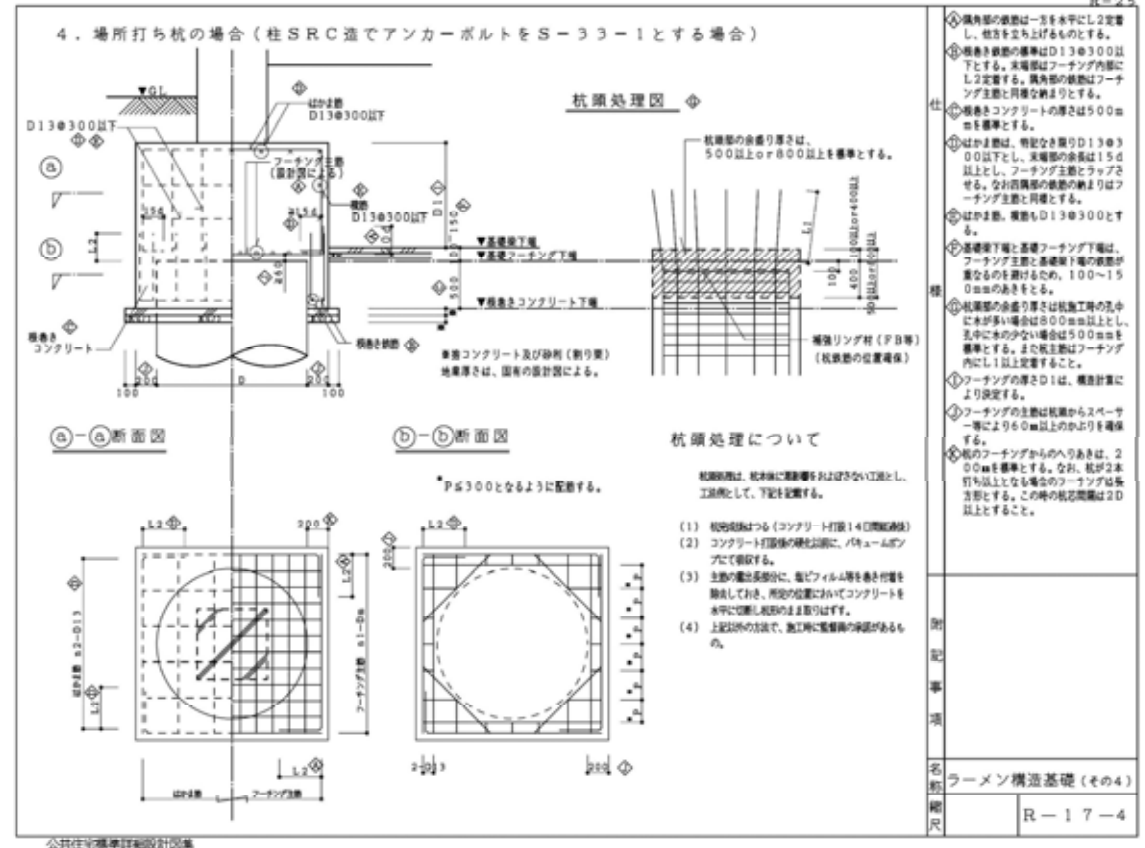
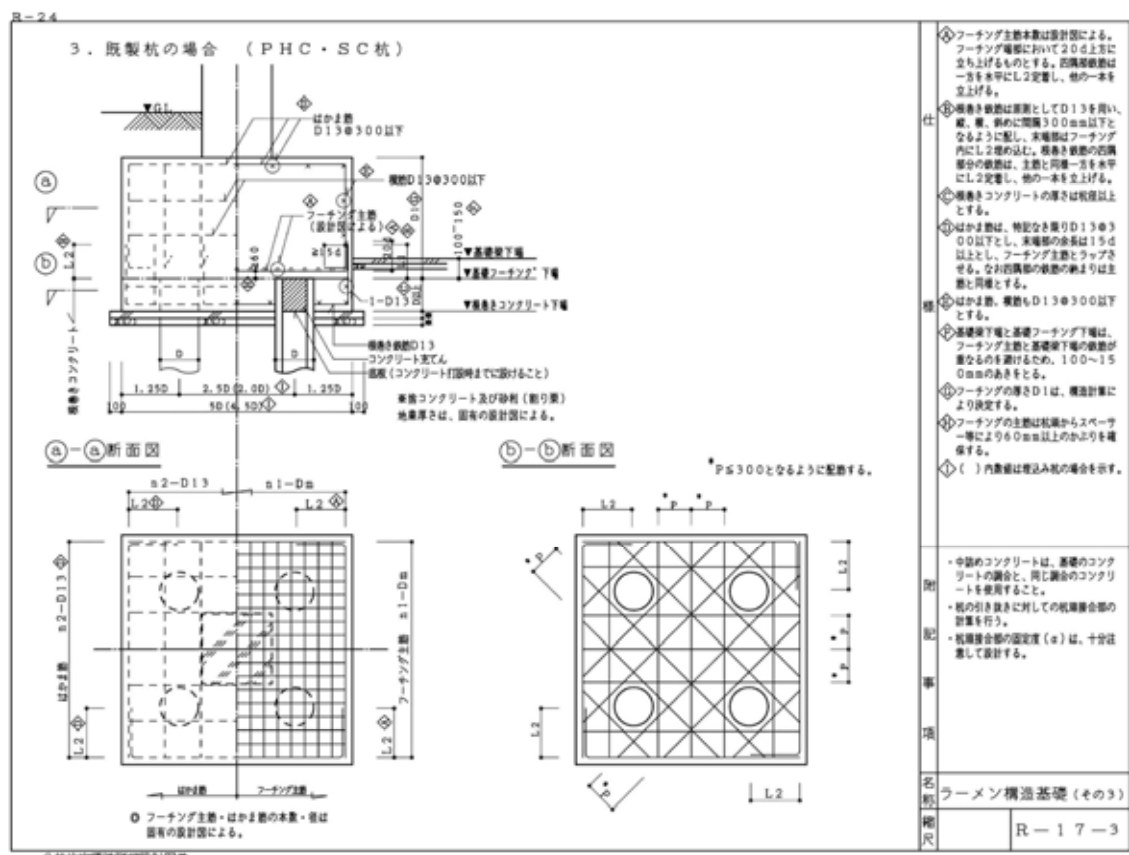
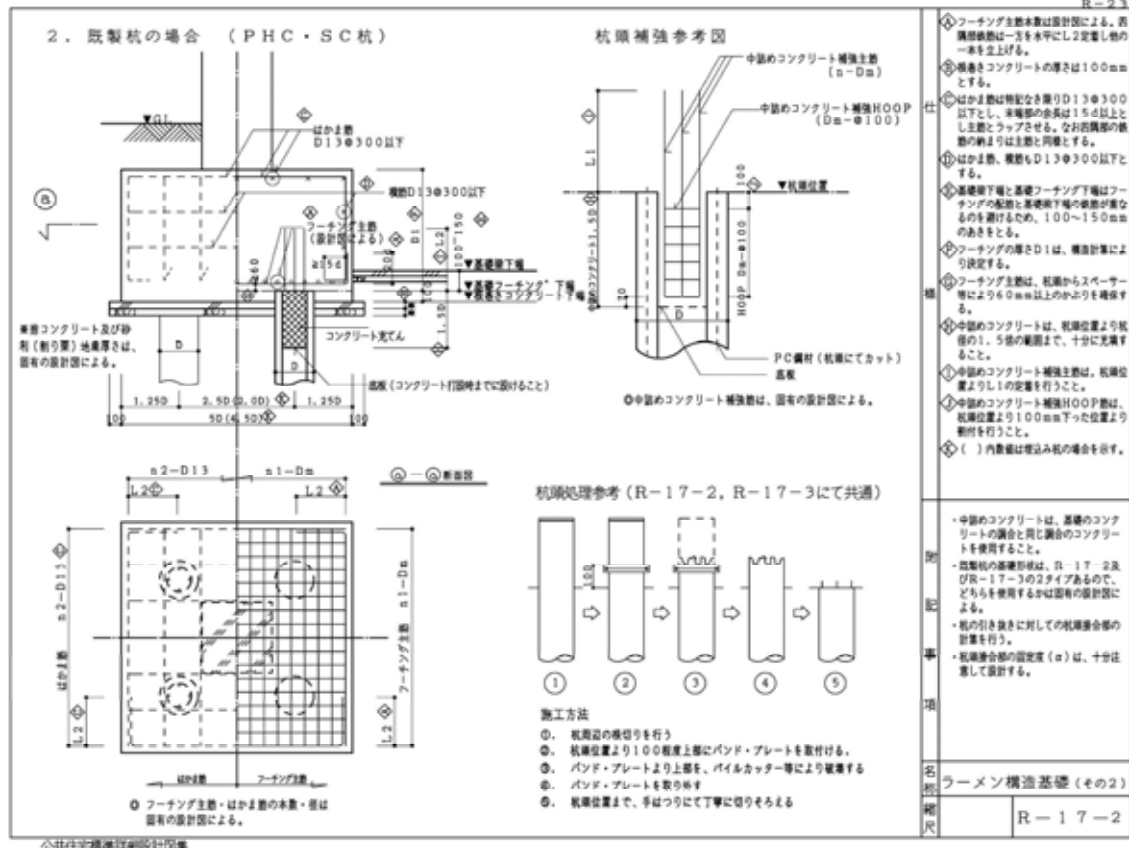
(a) 台形断面基礎 (b) 長方形断面基礎

仕
 ① 2m × 2m 以下の場合は基礎において、基工上の断面を考慮し台形断面とし、それ以上の場合は、テーパ部を要するの必要のない勾配 (15° ~ 20°) 以下とする。
 ② フーチング主筋は、本数は設計図による。フーチング幅部において 60mm 以上かつ 100mm 以上とする。幅部フーチング主筋 1 本目は、90mm 以上かつ 100mm 以上とする。
 ③ D1, D2, D3 は、図有の設計図による。
 ④ はかま筋は基礎に浮上力が作用する場合は必ず配筋し、鉄筋は、ピッチは図有の設計図による。
 ⑤ 基礎下層と基礎フーチング下層は、基礎下層とフーチング主筋が異なるのを避けるため、100~150mm のありきとする。

ラメン構造基礎 (その1)

R-17-1

中神設計事務所 一級建築士登録番号 第100481号 河合 達雄 中 神 集 行	株式会社 河合建築設計事務所 一級建築士登録番号 第100481号 河合 達雄	初吹住宅建築工事 (第3工区) 配筋基準図 (5)	図面番号 S NO. 5 線尺 S=1: (A1) S=1: (A3)
検 図 印 製 製 図	検 図 印 製 製 図	設計 H29年2月 愛知県建設部建築局公営住宅課	



中神設計事務所 一級建築士登録番号 第100481号 河合 達雄 中 神 集 行	株式会社 河合建築設計事務所 一級建築士登録番号 第100481号 河合 達雄	初次住宅建築工事 (第3工区) 配筋基準図(6) 図面番号 S NO. 6
検 印 製 印 設 計 H29年2月	愛知県建設部 建築局 公営住宅課	縮尺 S=1:(A1) S=1:(A3)

床スラブ配筋基準

4 固定スラブ

3 固定1辺自由スラブ

[1]

[2]

No	位置	短辺方向			長辺方向			備考
		短辺部	中央	短辺部	短辺部	中央	短辺部	
	上階部	○	○	○	○	○	○	
	下階部	○	○	○	○	○	○	

a. 継手長さ---L1 (引張り力を受ける箇所) L2 (圧縮力を受ける箇所)
 b. 定置長さ---(上階部---L2) (下階部---L3) 変置は●印による。

●印1 (前注書)

R-3.9

◎中央上層(◎部分)は、短辺上層筋を1本おきにすることを標準とする。
 ◎短辺上層筋は、短辺部の配筋量の1/2(断面積比)かつ下層の量以上とする。

短辺部上層筋	短辺部下層筋
D10 150 D10 250	D10 300 D10 250
D10 250 D10 250	D10 300 D10 250
D10 300 D10 250	D10 130 150 D10 200
D10 130 200 D10 250	D10 130 250 D10 250
D10 130 300 D10 250	D10 130 300 D10 250

D13のみとは上層のD10をD13と読みかえて適用する。

・3辺固定1辺自由スラブ[1]においてL₁/L₂≧2となる場合は、短辺スラブに準じて取り扱う。
 ・3辺固定1辺自由スラブ[1]、[2]の場合は、モチア配筋とする。

床板(その1)

R-51-1

1. 壁受部分のスラブ補強

スラブ面に壁が取り付けられる場合は、壁を両側へ突出にアンカーする。(図例R254)

2. スラブ受け筋

斜めスラブが取り付けるときはスラブ上層筋の固定筋を入れる。

3. スラブ段差部配筋要領

h≦150mmの場合-1

h≦150mmの場合-2

h>150mmの場合

4. スラブ開口部補強

● 例は、スラブ上層部・下層部が連続する。
 a. 200sa6000の場合

● メッシュによるスラブ開口部補強

● 例は、スラブ上層部・下層部が連続する。
 a. a<200の場合... 補強筋が壁
 a>600の場合... 補強筋により決定する

床板(その3)

R-51-3

R-4.1

・スラブ開口部にあたる場合は、原則として、主筋位置をずらし、筋に通す。
 ・スラブ開口部にあたる箇所は、開口部を閉鎖する場合は下の補強を開口部両端より、上下部の範囲内に配筋する。この場合、補強筋の両端は、必ず両端に定置される。
 (補強筋の本数は上・下階筋を出す。m: 切断されるスラブ筋の最大径) 上記のメッシュ筋による補強も可。
 ・スラブ厚さがh>150mmとなる場合については、出来れば小筋を設けて処理を行う。それが可能な場合のみ、本図によって処理をしてもよい。
 ◎ 最上層スラブは壁による支持のため、上層に固定モーメントが生じる可能性がある。従ってスラブは壁の位置により下層に固定部がモーメントが生じる。この固定モーメントに対する補強筋があるで設置する。
 ◎ 受け筋は、スラブ上層筋がD10の場合はD13、D10D13又はD13の場合はD16とする。

h	補強筋
200sa<400	2-D16
400sa<600	3-D16

床板(その3)

R-51-3

床板配筋要領

◎ SRC部分下層筋の納まり

床板スベーク配置要領

【1】 住戸部分床板の上層スベーク

住戸部分床板の上層には、プラスチックスベークまたは鋼製スベーク(いずれも継手禁止の工夫のあるもの)を開口部位置(○印に示す)に250mm以下の間隔で設置し、床板厚配筋の位置(●印に示す)に600mm以下の間隔で設置する。ただし、短辺方向の長さ300mm以上の場合は、床板厚配筋の位置のスベークの間隔を250mm以上とする。

【2】 住戸部分床板の下層スベーク

住戸部分床板の下層には、プラスチックスベーク(下層用長尺型)または鋼製スベーク(継手禁止の工夫のあるもの)を床板1/2幅方向に2倍程度の割合で有効に設置する。

● プラスチックスベークまたは鋼製スベーク
 --- 間隔 (D13以上)
 --- 床板厚配筋

床板(その2)

R-51-2

R-4.0

◎ 間隔はD13以上とする。この位置のスベークは、床板スベーク配置要領により設置する。
 ◎ 全層のトップ筋はL_x/4(長辺方向もL_x/4)より150mm長尺する。
 ◎ アポート部分の下層筋は、バースポット等に当たらないように250mm程度下ろして配筋する。
 ◎ 上層筋の定置はL2とし、隣接スラブに定置する。連続する場合は通しとしてよい。住戸等上層筋は壁中には継手を設けないことが望ましい。下層筋の定置はL2とし、隣接スラブに定置し、連続する場合は上層筋と同様の処理をしてよい。
 ◎ 住戸等中央上層筋は毎部上層筋を1本おきに通す。
 ◎ SRCの場合のスラブ下層筋は、継手によつかる場合はその先の土間によつかる場合については30°を削ぎない範囲で床面から斜め取りてよい。

在来工法スラブの場合に於いては下層によるスラブ厚さは、構造設計による。
 ◎ 住戸の適宜性能及び施工精度を上げるために、スラブ厚さは150mm以上とすることが望ましい。
 ◎ スラブの内のり配筋は、長期たわみ、DPF削減及び長期耐震性向上のための24mm以下とすることが望ましい。
 ◎ 内のり配筋が24mmを超える場合には、R-51-5の補強筋を付す。

床板(その2)

R-51-2

◎ 1階スラブ(土間コンクリートスラブ、後打ちスラブ)差し筋要領

1. 土間コンクリート配筋、差し筋

● 差し筋の取り付けは、基礎面中心をこえる位置に設ける。

● 基礎面天端と土間コンクリート天端、同じレベルのため

● 土間コンクリートを基礎面から切り離す場合

2. 1階(後打ち)スラブ差し筋要領

(スラブ厚L₁及び基礎面と工事現場の後打ちスラブ配筋リストに準ずる)

床板(その4)

R-51-4

R-6.2

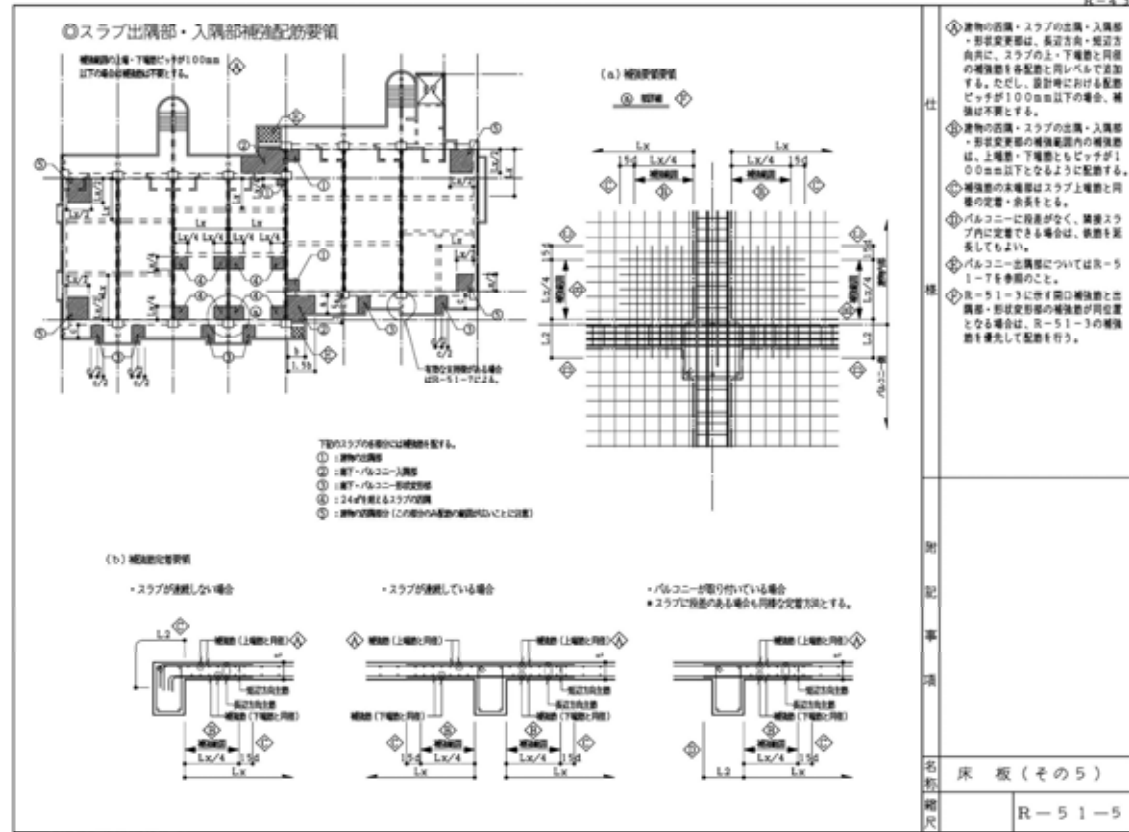
◎ 土間コンクリート天端と基礎面天端が同じレベルになると、差し筋が歪めくを誘導することになるので、可能な限りコブスラブとする。
 ◎ スラブ厚のみの数値は、基礎より50mmの位置に配するものとする。

・土間コンクリートは、居室床には使用しない。

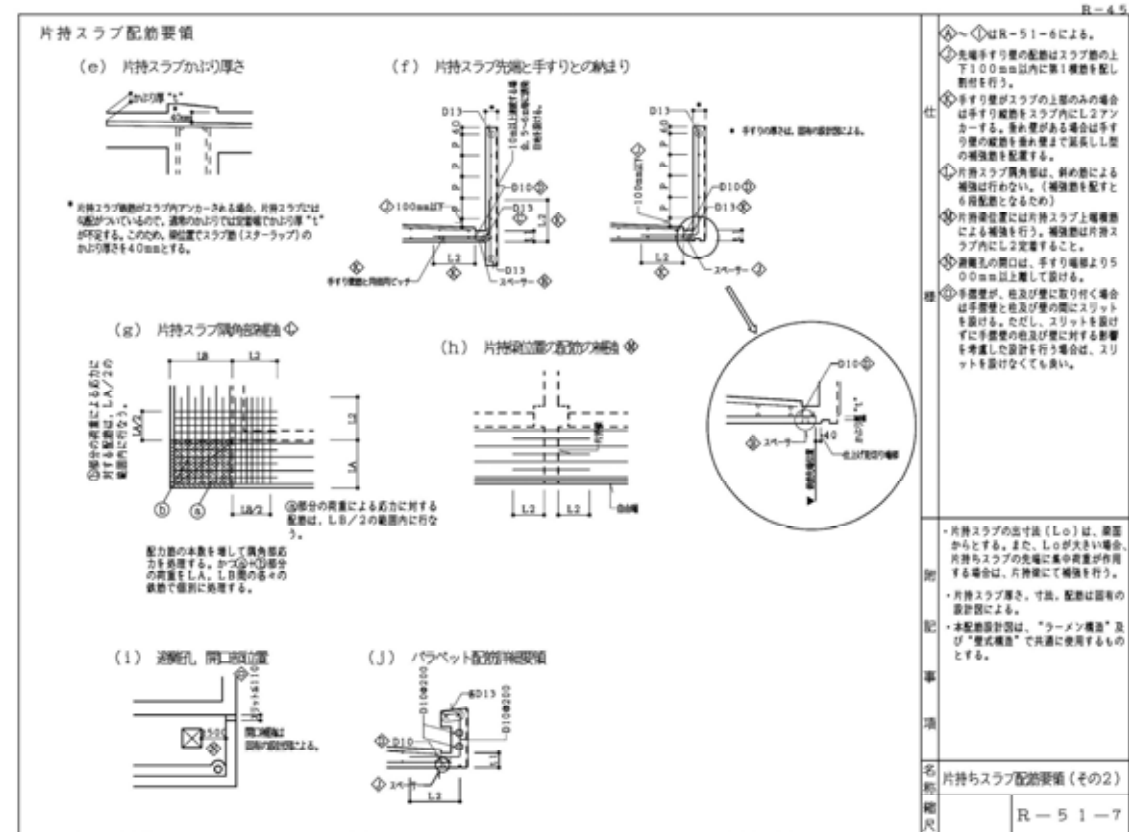
床板(その4)

R-51-4

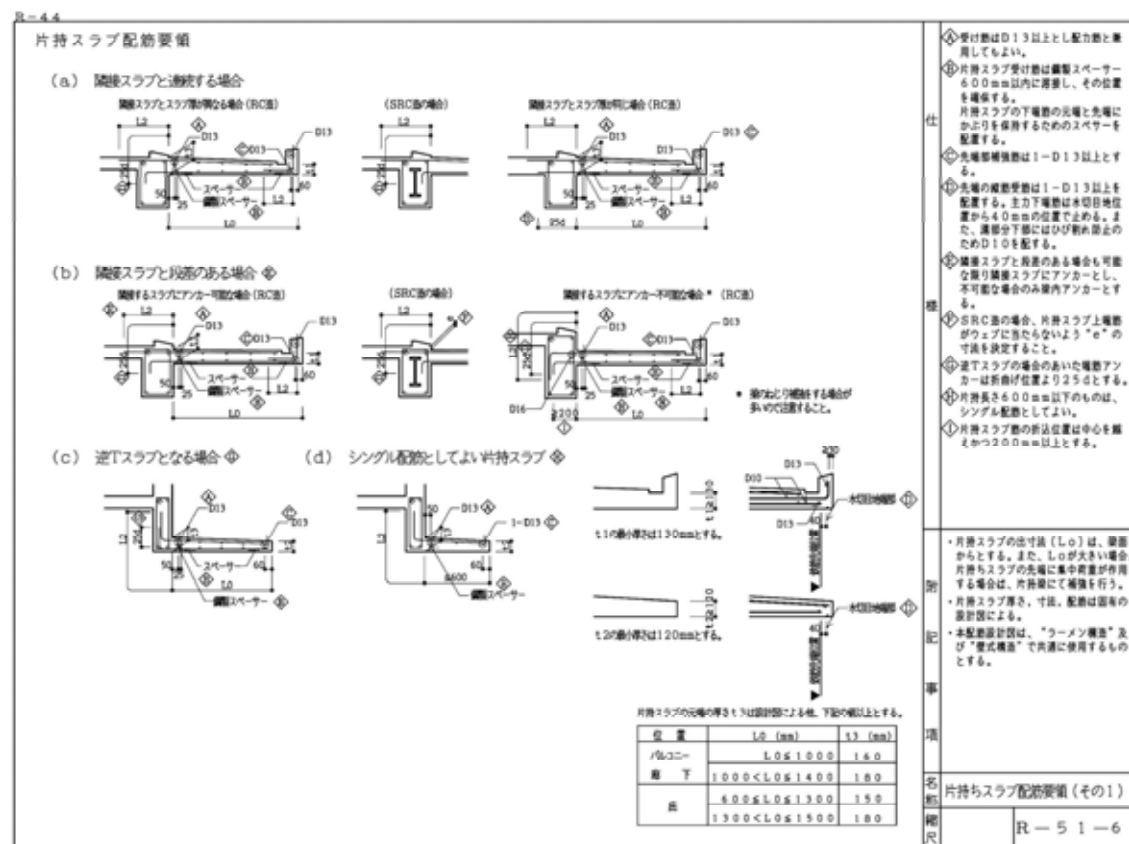
中神設計事務所 <small>一級建築士事務所 第10028号 建築師一級建築士登録番号 第208号</small> 中 神 崇 行	株式会社 河合建築設計事務所 一級建築士登録番号 第100481号 河合 達雄	初次住宅建築工事(第3工区) 配筋基準図(7)	図面番号 S NO. 7
検 図 印 製 図 印	設 計 H29年2月	愛知県建設部 建築局 公営住宅課	



公共住宅標準設計図集



公共住宅標準設計図集



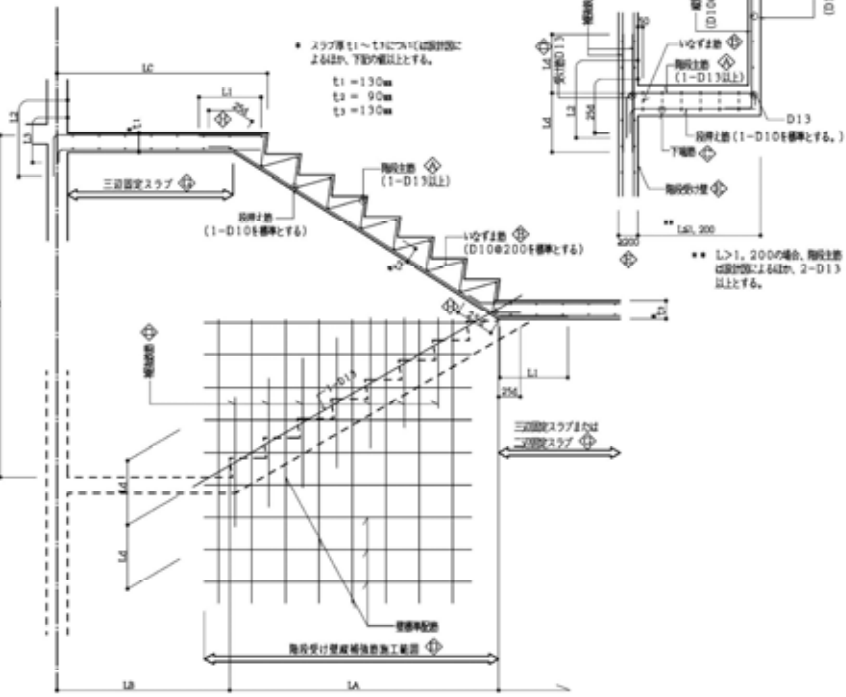
公共住宅標準設計図集

中神設計事務所 一級建築士登録番号 第100481号 河合 達雄 中 神 集 行	株式会社 河合建築設計事務所 一級建築士登録番号 第100481号 河合 達雄 製 印	初次住宅建築工事(第3工区) 配筋基準図(8) 図面番号 S NO. 8	愛知県建設部建築局公営住宅課 設計 H29年2月
---	--	---	-----------------------------

R-4.6

階段配筋詳細図

1) 片持階段の配筋 [住棟内]



公共住宅標準詳細設計図集

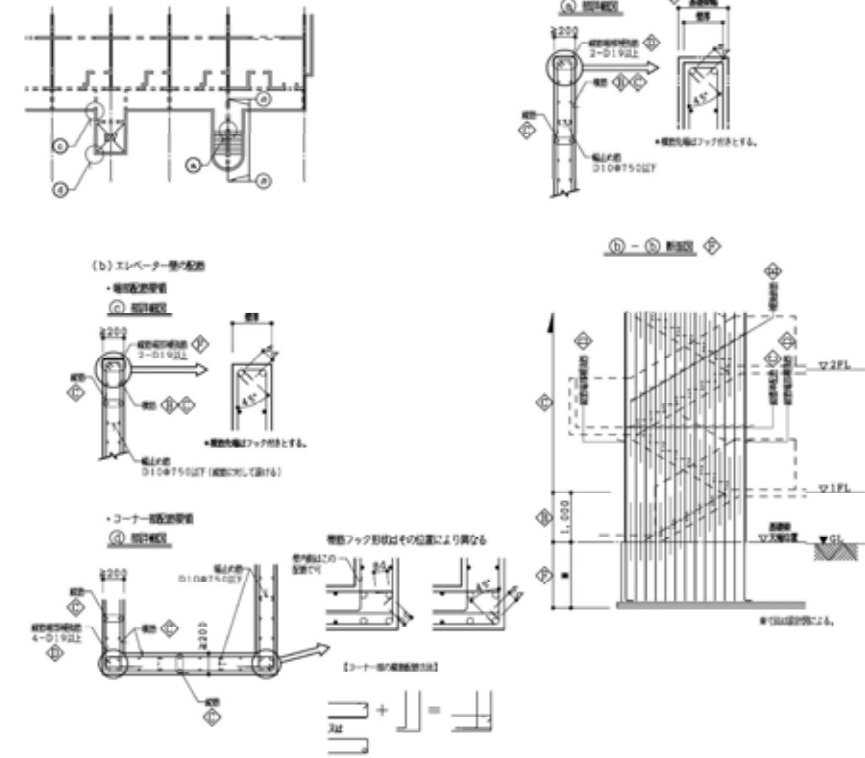
- 階段主筋は設計図によるほか、1-D13以上とする。
- いんざ主筋はD10@200標準とし、階段受け壁高2500mmの位置に等しいいんざ主筋を配筋する。
- 下階筋はD10@200標準とする。(ピッチはいんざ主筋と同じとし、いんざ主筋の真に配筋する。)
- 片持階段受け壁にける段床の曲げ補強筋の長さ、及びその定着長さsは設計図による。
- 階段受け壁の厚さは200mm以上とする。
- 階段受け壁の配筋については、R-55-3を参照する。
- 階段手すりの配筋管は片持スラブ先端の手すりの配筋管(R-51-7)に準ずる。
- 踊り場スラブは三辺固定スラブ、または二辺固定スラブとして計算した上でモータリ配筋を行うものとする。

・L.A, L.B, L.C, Hは固有の設計図による。

名称 階段廻り (その1)
縮尺 R-55-1

R-4.8

3) 屋外階段及びエレベーター壁配筋要領



公共住宅標準詳細設計図集

- 建物本体から突出する屋外階段の受壁及びエレベーター壁の配筋は建物の外壁に等形形式で配筋する。
- 受壁筋は、基礎天端から1m以内は等、ピッチ計算による他、D10@100以下となるように配筋する。
- 受壁・階段は、ピッチ計算による他、D10以上の鉄筋をφ250以下となるように配筋する。
- 階段筋は、基礎天端から1m以内は等、ピッチ計算による他、D10以上の鉄筋をφ250以下となるように配筋する。
- 階段筋の配筋詳細については、R-55-1を参照する。
- 配筋は基礎壁内で十分な拘束を行う。この時、基礎壁筋は標準以上とする。

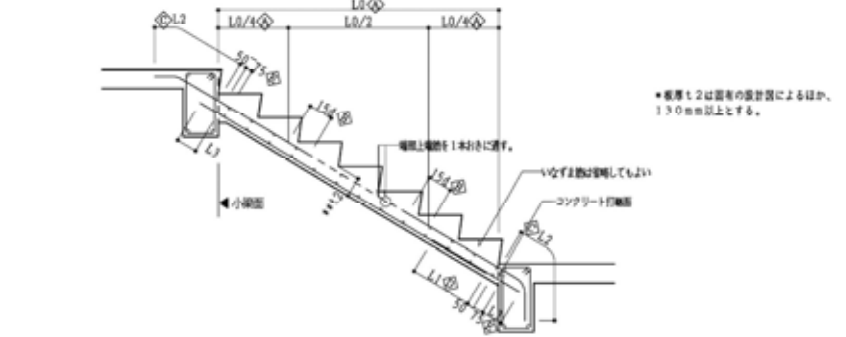
・各部の配筋 (いんざ主筋等) はR-35, R-55-1による。
・本図は、「ラメン構造」"壁式構造"にて共通とする。

名称 階段廻り (その3)
縮尺 R-55-3

R-4.7

2) スラブ階段の配筋

(a) 階段の両端に小梁のある場合



公共住宅標準詳細設計図集

- 主筋の端部中央の区分は、階段内のスパンL0の1/4の点とする。(通常のスラブと同様である。)
- 階段トップ筋の全長は、L0/4の点より15dとする。
- 階段上端筋は算定するスラブ内、または壁面に十分定着させること。定着長は1.2とする。
- 手すり区分はL0/4の区間内とする。コンクリート打層があるため注意すること。
- 配筋の端部筋位置を示す。配筋図はこの位置から引ける。
- 主筋の端部中央の区分は設計図によるものとする。
- 階段の上端筋の全長は区分幅より1.5dとする。
- 歩留り点において上階筋、下階筋とも手すり区分1.2mとって、各スラブ筋と連続させる。

・各部の配筋 (いんざ主筋等) はR-35, R-55-1による。

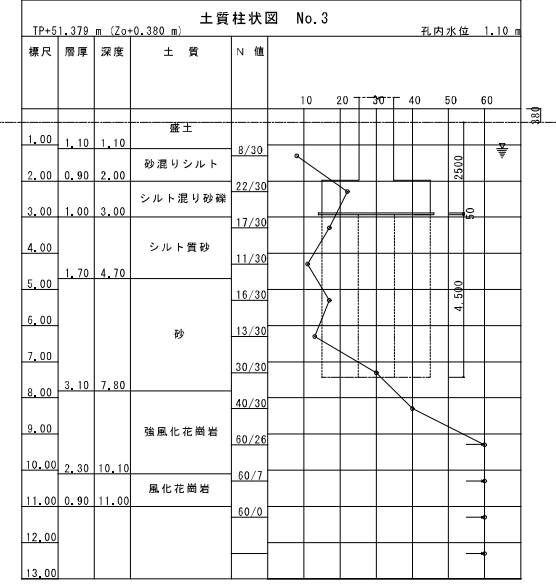
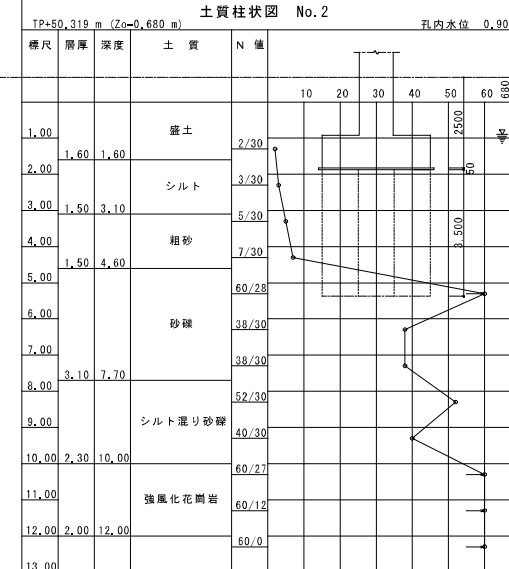
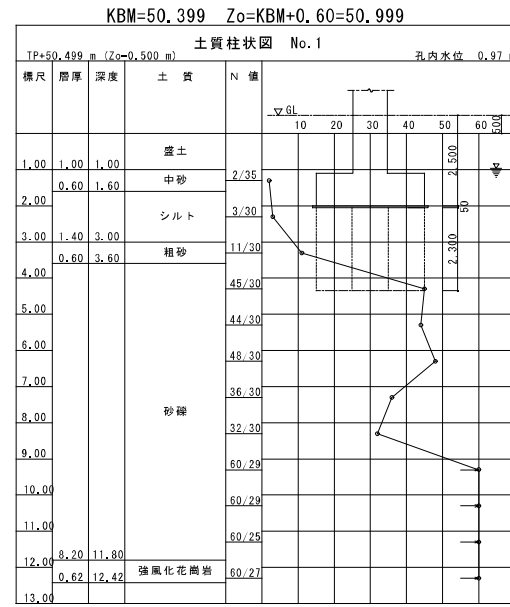
名称 階段廻り (その2)
縮尺 R-55-2

中神設計事務所	株式会社 河合建築設計事務所	初吹住宅建築工事 (第3工区)	図面番号 S
一級建築士登録番号 第100519号 建築師一級建築士登録番号 第389号 中 神 集 行	一級建築士登録番号 第100481号 河合 建雄	配筋基準図 (9)	縮尺 S=1: (A1) S=1: (A3) NO. 9
校 図	製 図	設 計 H29年2月	愛知県建設部 建築局 公営住宅課

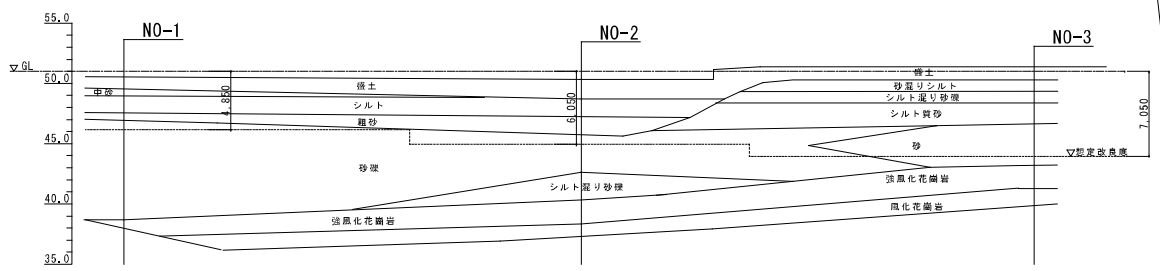
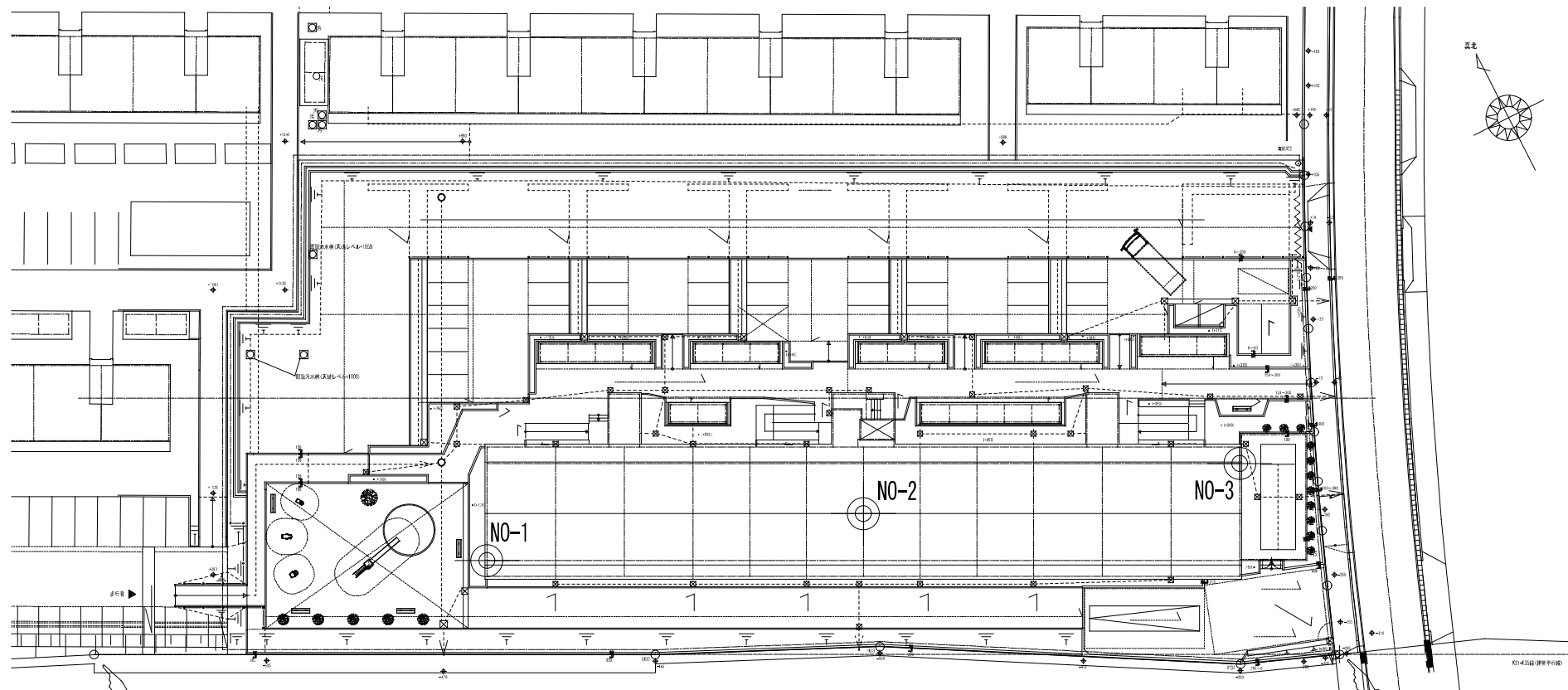
(Fm=FC+S 補正值S=3~6 公共住宅建設工事共通仕様書 H25版)

構造特記			
コンクリート	躯体	5F柱~RF梁 3F柱~5F梁 1F柱~3F梁	$F_c=27N/mm^2$ (設計強度) $F_c=30N/mm^2$ (設計強度) $F_c=33N/mm^2$ (設計強度)
	基礎	基礎	$F_c=33N/mm^2$ (設計強度)
	土間	土間	$F_c=18N/mm^2$ (設計強度)
	捨て	捨て	$F_c=18N/mm^2$ (設計強度)
鉄筋	D16以下	SD295A 重ね継手	(JIS規格品)
	D19以上	SD345 ガス圧接	(JIS規格品)
	D29以上	SD390 ガス圧接	(JIS規格品)

鉄筋の最小かぶり厚さ			
土に接しない部分	耐力壁以外の量・床	屋内	20
		屋外	30
	耐力壁・柱・梁	屋内	30
		屋外	40
土に接する部分	柱・梁・床・基礎立上がり部分	40	
	基礎(立上がり部分を除く)	60	

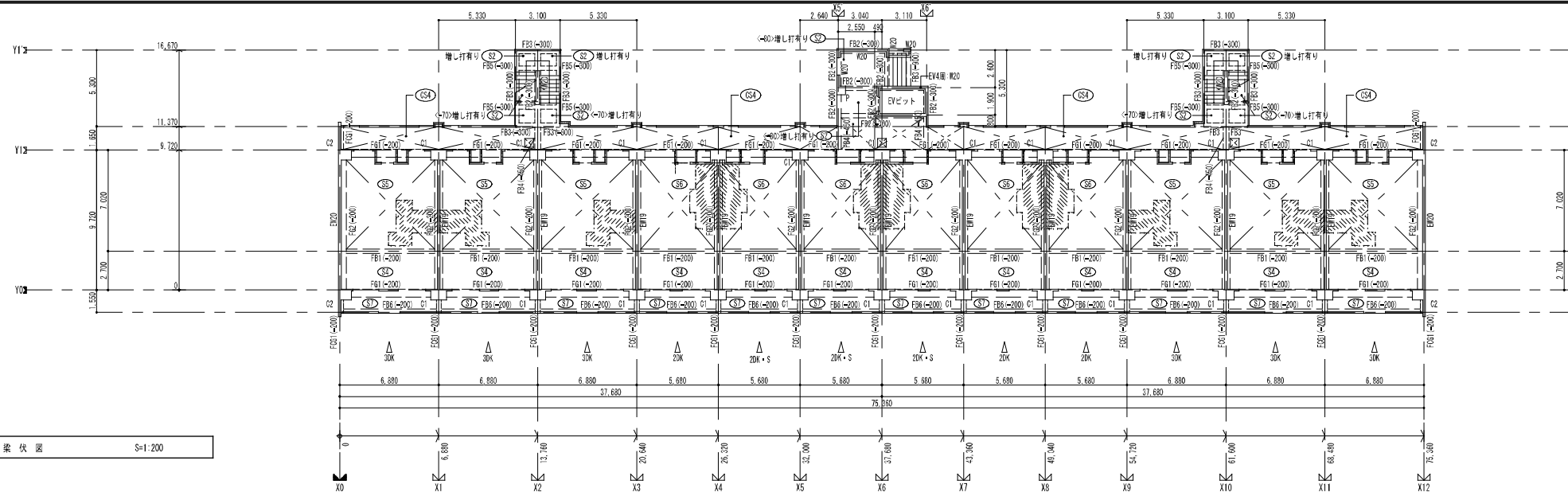


- コンクリート施工計画
- 打込み、締め固め
 - 打継ぎ部処理方法
 - 養生方法
 - 型枠及び支柱の除去
 - 構造部材の耐久性が令第37条に適合
 - コンクリートの材料が令第72条に適合
 - コンクリートの強度が令第74条に適合
 - コンクリートの養生が令第75条に適合
 - 鉄筋のかぶり厚さが令第79条に適合
 - 構造方法に関する補足基準、令第80条の2に適合
 - 平成13年国交令1025号に適合
 - 法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するものについては建設告示第1388号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとする。
- 鉄筋の最小かぶり厚さ
- ※設計かぶり厚さは上記+10mmとする。
設計かぶり厚=鉄筋加工寸法(スペーサー管理値)とする。

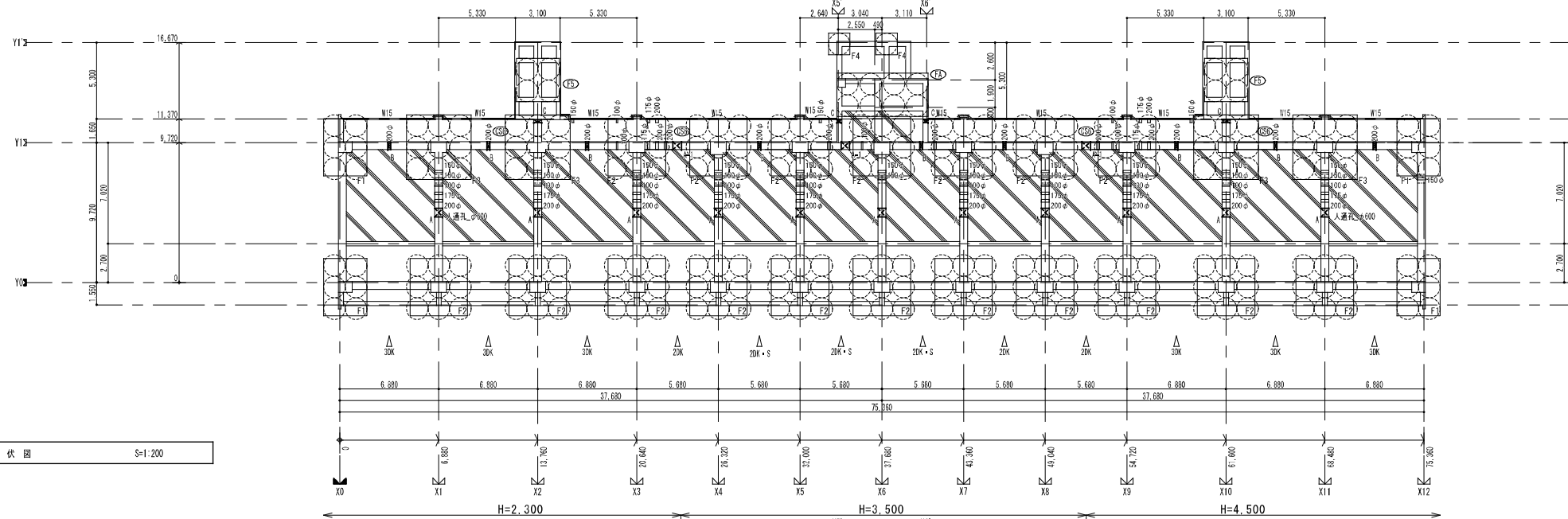


想定地層図 1/300

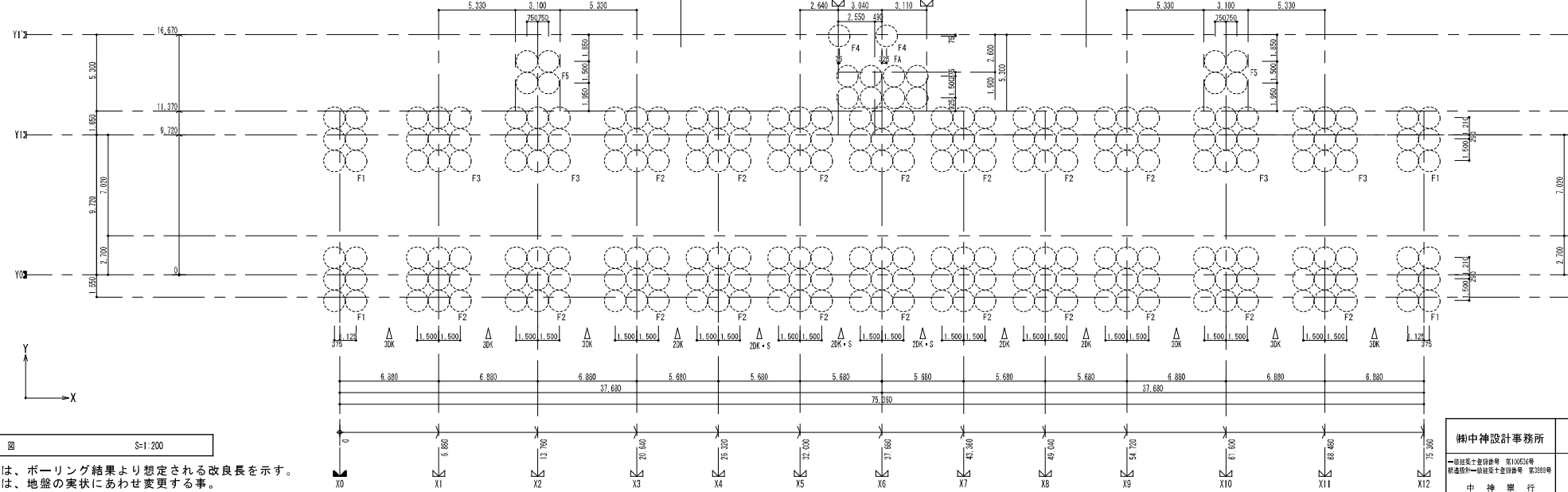
株式会社 河合建築設計事務所 一級建築士登録番号 第100481号 河合 建雄 中 神 楽 行	株式会社 河合建築設計事務所 一級建築士登録番号 第100481号 河合 建雄	初次住宅建築工事(第3工区) 使用材料 ボーリング柱状図	図面番号 S NO. 10
検 印	製 印	設計 H29年2月	愛知県建設部 建築局 公営住宅課



1階梁伏図 S=1:200



基礎伏図 S=1:200



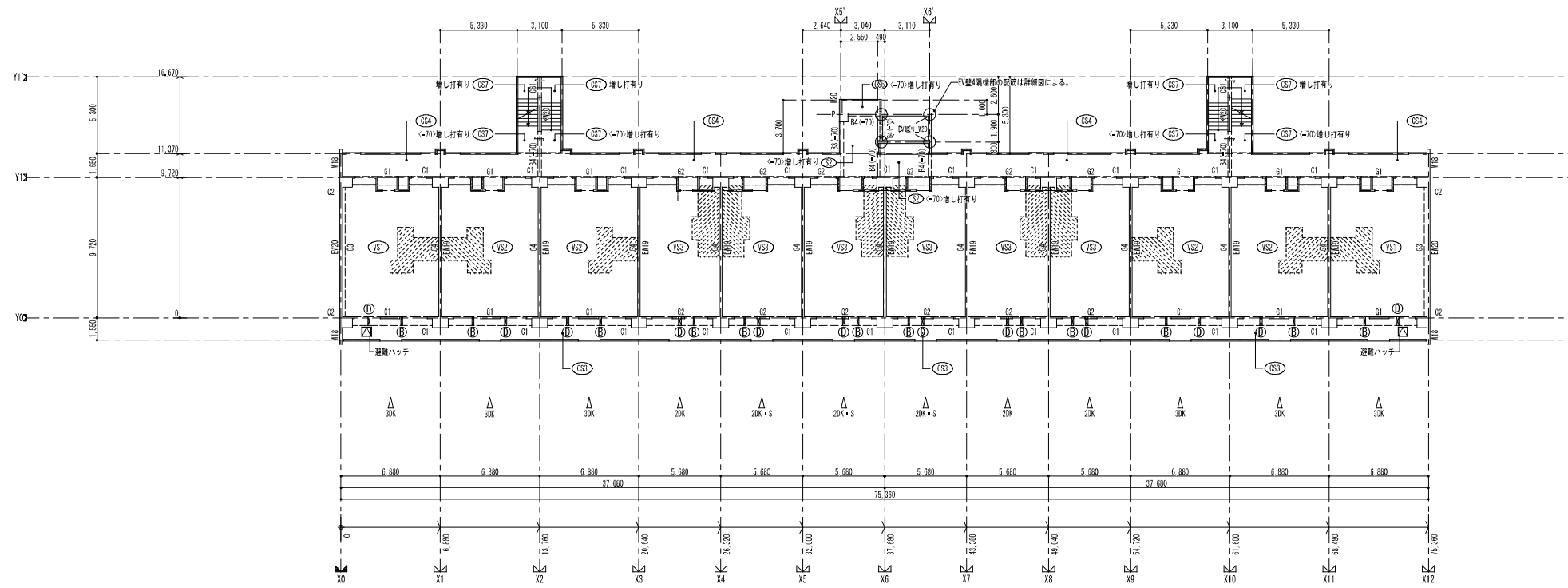
杭伏図 S=1:200

H=****は、ボーリング結果より想定される改良長を示す。
改良長は、地盤の状況にあわせ変更する事。

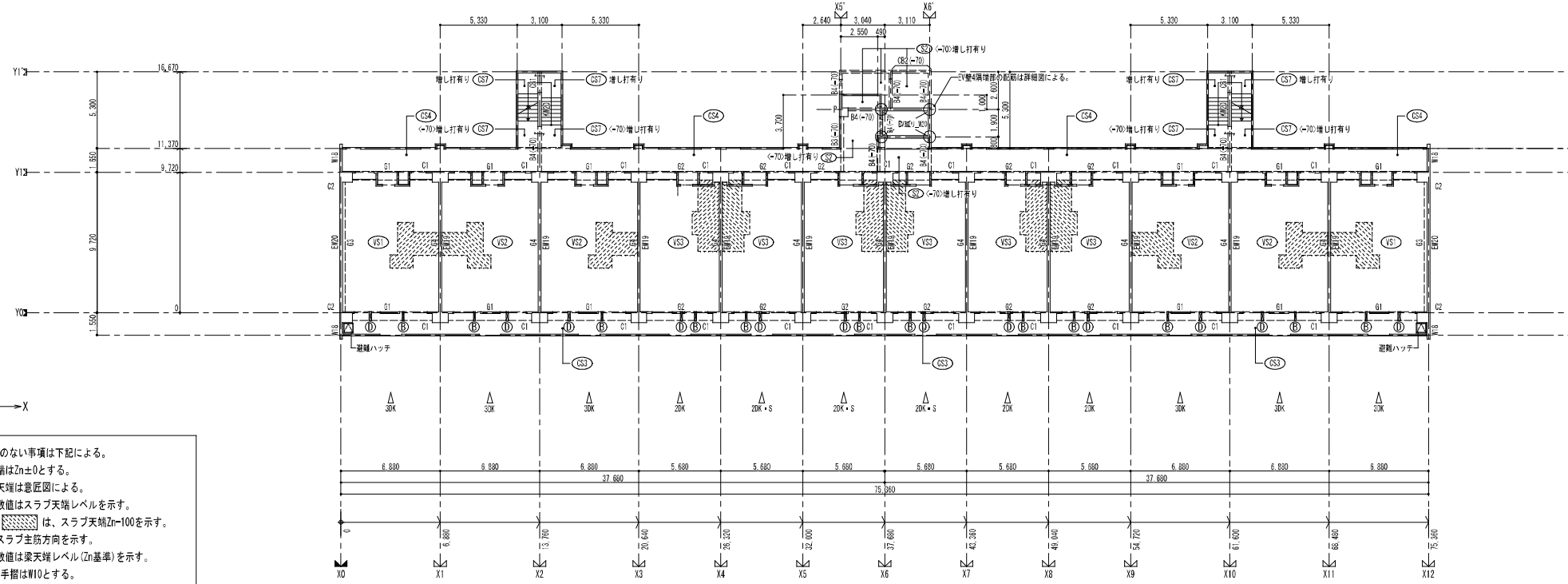
- 図面に明記のない事項は下記による。
- 改良杭先端レベルはZ0-2.550とする。
 - 凹凸床検口_600角を示す。
 - Z1-Z0=400とする。
 - スラブ天端はZ1±0とする。
 - < >内数値はスラブ天端レベル(Z1基準)を示す。
 - は、土間コンクリート_ア120_範囲を示す。(ピット部天端_Z0-950~1130) (ア120.D10@200Sタテヨコ)
 - は、スラブ天端Zn-100を示す。
 - 基礎梁天端はZ1-200とする。
 - 壁は#12・手摺は#10とする。
 - 基礎梁天端レベルは(Z1-200)とし、()内はZ1よりの寸法を示す。
 - 共用廊下・バルコニー床形状は詳細図による。
 - はピット範囲を示す。
 - は以下の開口部を示す。
- ※ : A = 人通り_φ600
 ※ : A-1 = 人通り・通水口_φ600_変則型
 ※ : B = 通水口_W200×H200
 ※ : C = 通水口_W200×H300

コラム径	長さ(m)	数量(本)
1500φ	2.3m	70本
1500φ	3.5m	190本
1500φ	4.5m	70本
合計		240本

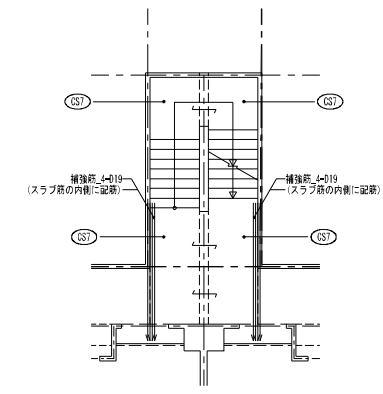
中神設計事務所 <small>一級建築士登録番号 第100519号 建築設計一級建築士登録番号 第3889号</small> 中 神 集 行	株式会社 河合建築設計事務所 一級建築士登録番号 第100481号 河合 建雄	初次住宅建築工事 (第3工区) 1階梁伏図・基礎伏図・杭伏図 縮尺 S=1:200 (A1) S=1:400 (A3)	図面番号 S NO. 11
検印	製印	設計 H29年2月	愛知県建設部建築局公営住宅課



3階梁伏図 S=1:200



2階梁伏図 S=1:200



外壁階補強筋定着要領(2階~3階まで共通) S=1:100

- ※：図面に明記のない事項は下記による。
1. スラブ天端は $Zn \pm 0$ とする。
 2. RFスラブ天端は意匠図による。
 3. < > 内部数値はスラブ天端レベルを示す。
 4. [斜線] は、スラブ天端 $Zn-100$ を示す。
 5. [点線] はスラブ主筋方向を示す。
 6. () 内数値は梁天端レベル(Zn 基準)を示す。
 7. 壁はW12・手摺はW10とする。
 8. 階段室内のスラブ天端は意匠図による。
 9. (A) (E) はスリーブ位置を示す。
 10. 梁天端は $Zn \pm 0$ とする。
RG1, RG2, RG3梁天端レベルは $Zn-200$ とする。
RG4, RG5, B1梁天端レベルは意匠図による。
 11. 共用廊下・バルコニー床形状は詳細図による。

中神設計事務所 <small>一級建築士登録番号 第100524号 建築師一級建築士登録番号 第3889号 中 神 集 行</small>	株式会社 河合建築設計事務所 一級建築士登録番号 第100481号 河合 建雄	初次住宅建築工事 (第3工区) 2階・3階 梁伏図 製 尺 S=1:200 (A1) S=1:400 (A3)	図面番号 S NO. 12
検 図 印 製 図 印	設 計 H29年2月	愛知県建設部 建築局 公営住宅課	